

長倉沢 (作図: 5)

右岸にきちんと積んだ石垣が現われた。その先今度は左岸にも石垣が見られる。昔の大平温泉に通じる道でもあったのだろうか。

ここまでくるともう源流という感じである。コースを左にとってヤブをこぎ、一一時五五分林道に出る。

出合の平凡さからは想像できない意外な滝の連続に充分満足する沢登りであった。(記・一)

(タイム)

出合八・一五―沢終了一一・四五―林道二一・五五―不忘閣ヒュッテ一・二〇五

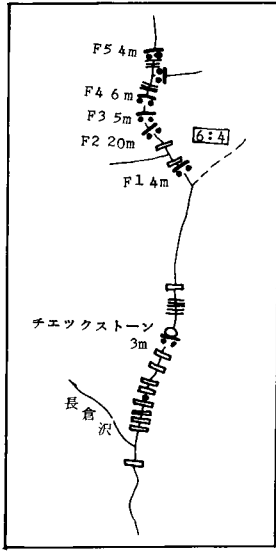
長倉沢

一九七八年七月十八日

◆天気(晴)

大平部落の少し先に車を置き、出合まで林道を歩く。八時四〇分ヤブをこいで沢に入る。

今日も快晴で暑くなりそうである。地下たびをはき、わらじをつける。水の冷たさに身がひきしまる。さあこれから未知の沢を開拓するのだ。



座々沢 (作図一)

この沢は前半は暗くコケむした感じであるが、後半は

ゴロ口状を約一〇分歩いて最初の砂防ダムに出会う。それからなんとゴロ口状と砂防ダムのくり返しが一〇回も続く(約二時間)。沢を半分過ぎた所でやつとF1四段が現われた。左岸を快適に直登。水量比一…一の二俣を左に入り、連続してF2、F3、F4と左岸を直登。F6はトヨ状滝となっている。F8は大きな岩壁で、左右二本の流れが落ちていく。右側の滝を登る事にし、最初右岸の大きな岩を利用して取り付き、滝をトラバースし左岸に渡り直登。浮石をつかまぬ様に慎重に行動。F9、F10二段二〇段、F11一〇段で核心部は終わり、あとは小さなルンゼを登り、ヤブこぎ約三〇分で登山道に出る。

滝が続きすべて直登できる。

(タイム)

出合八・四〇—二俣一一…〇五—沢終了一二…三〇—
登山道一三…〇〇

座々沢

一九七九年六月二十四日

◆天気(晴)

大平部落から少し登った所にかかる橋のたもとに車を出発。長倉沢分岐までの間、橋の跡と取水口、砂防ダムのほかはなにもない河原が続く。二時間弱で長倉沢分岐へ。水量は長倉沢が座々沢の約倍量である。ここから砂防ダムの連続。八個のダム、三位のチエツクストーンの滝、小さなナメ、更に砂防ダムを一つ越えたとまた単純な河原となる。カレ沢を右手に見て間もなくF1四段が現われ、沢の分岐となる。水量は左俣の方が多いが、右俣に入る。F2は三〇段三段的滝である。ホールドは充分ですべて直登できるが、望木君は初めてであるので、下段の二〇段はザイルを使う。三段滝を越え